

## 川崎重工グループ「CSR報告書2011」についてのご意見を 磯辺剛彦慶応義塾大学大学院教授に伺いました。

**山下：**磯辺先生には、昨年も当社グループのCSR報告書2010への第三者意見をいただきました。本年度は直接お話をお伺いする形で、昨年度からの変化も含めてご意見をいただきたいと思ひます。

**磯辺：**まず全体を通しての感想・評価ですが、全体の構成について、昨年の報告書からの継続性が重視されています。これは川崎重工グループのCSR活動が読者にとって理解しやすいだけでなく、CSRが経営の中核として位置づけられ、着実に進化させようとする意思を読みとることができます。一方、本報告書では、CSR活動が包括的、網羅的に説明されているため、逆に冗長な流れになっていることが気になります。すべてのCSR活動ではなく、川崎重工グループ独自の活動にポイントを絞った報告書のほうが読者は理解しやすいと思ひます。もう少しWebの方に情報を移行してもよいかもしれません。

**山下：**先生のご指摘の通りです。どうしても伝えたいことをすべて盛り込みたいという意識が働いてしまい、読み手の身になりきることができなかつたと思ひます。

**磯辺：**次に体制について、CSR委員会、コンプライアンス推進、全社リスク管理など、CSRに関わるさまざまな体制やシステムが整備されています。その一方で、各体制の連携についての検討が必要だと思ひます。

**山下：**それも仰られる通りです。社会からの要請に基づいて社内の体制を順次整備してきたため、全体としての調整はこれからの仕事だと考えています。



**磯辺：**CSR課題の自己評価について、「マネジメント」領域の項目で昨年よりも評価が高くなっています。昨年と同様に「従業員」領域の評価は高く、社内に関する一応のCSR成果が達成されたと判断できます。今後は、「環境への取り組み」の海外への展開や「社会貢献」など、外へのCSR課題に重点をおくことが必要になります。

更に、今年の報告書ではカンパニーごとのCSR課題が抽出されています。このことは、CSRへの問題意識が本社だけでなく、

全社的に共有すべき課題として認識されているものと評価いたします。ただ各カンパニーのCSRへの取り組みについて温度差があるようです。CSRのカテゴリーやステークホルダーによっては、すべてのカンパニーではなく、特定のカンパニーあるいは製品を取り上げることも検討すべきだと思ひます。



**山下：**当社グループには7つのカンパニーがあり、それぞれの事業では製品とお客様が異なるため今年度から始まったCSR課題についても温度差が出ています。社会との繋がりを意識して、各カンパニーの活動についてそれぞれの特徴が出てくるように担当部門と密度の濃い意見交換をしていきたいと思ひます。

**磯辺：**最後に、東日本大震災への対応についても述べさせていただきます。本報告書の中で、川崎重工グループは日本の社会インフラを支える役割を担っていることがクローズアップされています。その中で、今後果たすべき役割について十分な検討が行われたことを伺うことができます。インフラを支えるのもCSRの重要な側面です。今後の注力を期待しております。

**山下：**ありがとうございます。今回の大震災では、カンパニーの事業活動だけではなく、全社的な活動として社会的責任を改めて強く認識させられました。CSR活動もこの経験を踏まえて深めていきたいと思ひます。



川崎重工業株式会社  
CSR推進本部 本部長  
執行役員

山下 清司

慶応義塾大学大学院  
経営管理研究科 教授  
経営学博士

磯辺 剛彦

## 川崎重工業株式会社

設立年月日 | 1896年10月15日

本社所在地 | 東京本社  
〒105-6116 東京都港区浜松町2丁目4番1号  
(世界貿易センタービル)  
神戸本社  
〒650-8680 神戸市中央区東川崎町1丁目1番3号  
(神戸クリスタルタワー)

代表者 | 取締役社長 長谷川 聡

資本金 | 104,340百万円(2011年3月期)

発行済株式総数 | 1,670,646,460株(2011年3月期)

売上高 | <連結> 1,226,949百万円(2011年3月期)  
<単体> 817,455百万円(2011年3月期)

従業員数 | <連結> 32,706人(2011年3月期)  
<単体> 14,617人(2011年3月期)